

令和2年度第1回埼玉県南西部地域保健医療・地域医療構想協議会
議事録

1 日 時

令和2年11月5日（木）10:00～11:30

2 場 所

朝霞保健所 大会議室

3 出席者

【委員】

村山正昭委員（会長）、関谷治久委員、須田勝行委員、新井信明委員、畑中典子委員、村田順委員（代理）、菅野隆委員（代理）、原彰男委員、鈴木義隆委員、富家隆樹委員、柳下譲次委員、永井智也委員、増尾猛委員、麦田伸之委員、竹之下力委員、鈴木貴久委員、湯尾明委員

【オブザーバー】

管内市・町職員及び保健センター職員

【事務局】

保健医療政策課職員、医療整備課職員、高齢者福祉課職員、朝霞保健所職員

【説明者】

病床整備医療機関（4機関）

【傍聴人】

2名

4 議事

(1) 会長、副会長の選出について

村山委員を会長、関谷委員を副会長と決定した。

(2) 平成30年度病床機能報告の定量基準分析結果について【資料1】

資料1-1～3に基づき、保健医療政策課が説明した。

(3) 第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病床整備の状況について【資料2】

資料2-1に基づき、医療整備課が説明した。

資料2-2～5に基づき、病床整備医療機関が説明した。

(4) 埼玉県地域保健医療計画の中間見直しについて【資料3】

資料3に基づき、保健医療政策課が説明した。

(質疑)

Q(委員): 医療計画の見直しに関して、介護医療院はどのように位置づけられるのか。

A (事務局) : 介護医療院への転換は具体的な事例があればこの協議会で報告を頂いて御意見を頂くことになっている。介護サービスの見込み量の調整については後ほど資料4-1に基づいて詳細に説明する。

(意見等)

(委員) : 在宅医療に関して地域で抱えている課題だが、東入間地区ではケアマネと病院との間でリハビリの到達地点にギャップがある。

(事務局) : 資料2-3 さくら記念病院の報告資料に10/7に東入間地区の病院とケアマネの連携会議に出席したと記載があった。その時の会議の様子や意見などあれば参考に発表してもらいたい。

(さくら記念病院) : ケアマネさんと連携が取れていないという課題があり、新しいフォーマットを作りましょうという話になったと聞いている。連絡をどう密に取っていくのかが課題である。

(委員) : 私もその会議に出席した。横の連携が取れていないので入退院支援ルールを作ろうということになっている。入院する前の情報収集に時間がかかっている。入退院支援ルールについては出席した他院の院長も必要性を感じており、東入間地区のルールを早めに作っていききたい。

(委員) : 管内には沢山の介護施設があり、近隣市から訪問医療、訪問看護が入り込んでいるが、何か急変があったときなど救急の医療機関に情報が十分伝わらないという状況が多々見受けられる。地域外の訪問医療が地域の医師会ないし病院と連携できるようなシステムを作っていただけると有難い。

(5) 第7次地域保健医療計画(後期)及び第8期介護保険事業(支援)計画における在宅医療・介護サービス等の追加的需要へ対応するサービス見込み量の調整について

【資料4】

資料4-1~2に基づき、高齢者福祉課が説明した。

(6) 外来医療に係る医療提供体制の確保に向けた取組について 【資料5】

資料5-1~2に基づき、朝霞保健所が説明した。

(意見等)

(委員) : 地域で不足している学校医等に魅力を感じないと手挙げしてもらえない。

県がこのような取組を進めるのであれば、現場も変えていかなければならない。

○アドバイザーからの意見

この地域は療養病床の利用率が極めて高く、在院日数も長い。普通なら一人当たりの医療費が高くなるが、この地域は県内でも一人当たりの医療費が低い地域である。全国の各医療圏がこういう形になりたいと目指している地域だともいえる。

一方で一般病床数は増加傾向だが、75歳以上人口の増加により療養病床は人口比で低位が続いている。7次計画の公募で増床が進められているが需要に応えられる訳ではない。課題解決を図るために、在宅療養医療の継続を可能とするための環境整備が求められる。

住まいの確保、生活環境の整備、地域住民の関わりなどを考えていくと医療だけでは解決が難しい。地域福祉の充実を含めて行政との関わりを強くしていただけるよう、この調整会議を発信の場と位置付けていただければと思う。

(7) その他

特になし

5 閉会